

平成 24 年度「特別支援教育総合推進事業（早期からの教育相談・支援体制構築事業）」
報告書

団体名（受託自治体名）	福井県
推進地域概要	推進地域名：勝山市（人口：24,735人） 小浜市（人口：30,582人） 坂井市（人口：91,375人） 若狭町（人口：15,705人） 保育所数：67（公立45・私立22） 幼稚園数：20（公立18・私立2） 小学校数：52（公立51・私立1） 特別支援学校数（幼稚部）：2（公立2） （小学部）：3（公立3）

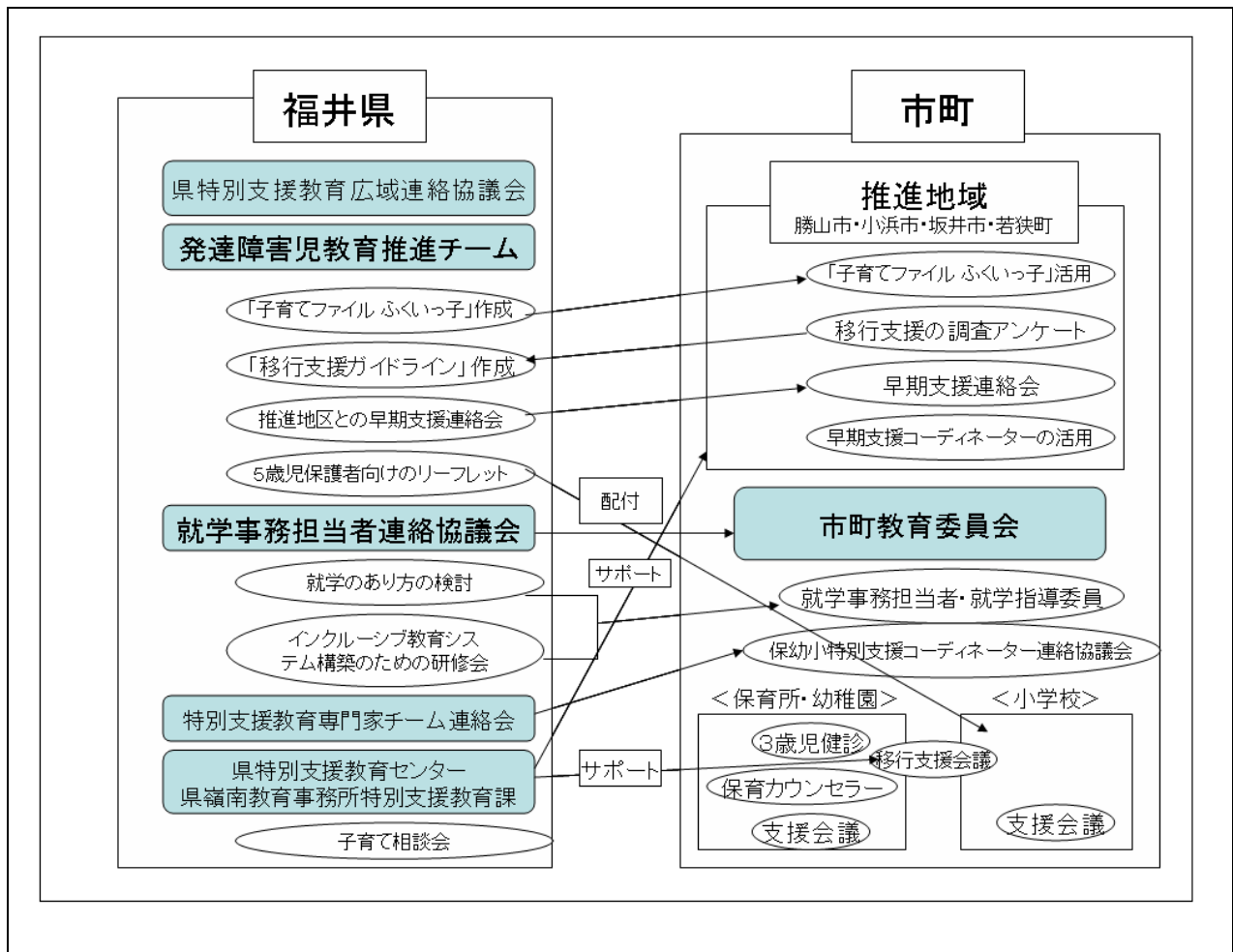
I 概要

1 事業の概要

福井県では平成 24 年度に、教育・福祉・労働等の関係部局による『発達障害児教育推進チーム』を立ち上げ、発達障害等のある人たちの、就学前の幼児段階から学校を卒業して社会で自立するまでの一貫した指導・支援の移行システムを協働で検討した。

本事業では、改正障害者基本法を踏まえ、特別な支援が必要となる可能性のある子供およびその保護者に対し、各市町において早期からの情報提供や丁寧な教育相談の実施に取り組み、円滑な就学相談へのつなぎ、就学後も柔軟できめ細やかな対応が可能な支援体制構築を目標に事業を進めてきた。特に、特別支援教育センターや嶺南教育事務所の特別支援教育指導主事による巡回相談を強化し、発達検査や個別の指導計画、教育支援計画の作成を含めた就学相談に取り組むほか、就学事務を担当する市町教育委員会に対し、県レベルでの連絡協議会を開催し、就学前の教育相談・就学相談の体制についての情報交換や学識経験者による研修を実施した。また、保護者に対して途切れない支援の大切さや、小学校での支援体制を紹介したリーフレット『子どもたち一人ひとりの笑顔のために』を作成し、県下全ての就学を控えた 5 歳児の保護者に配付した。就学前から就労まで途切れない一貫した支援の継続をめざして、福井県版支援ツール『子育てファイル ふくいっ子』を健康福祉部と協働で作成、またその別冊として『移行支援ガイドライン』作成に取り組んだ。

<事業の概念図>



2 事業の成果

就学前の教育相談・就学相談については、特別支援教育センターを中心に保護者の思いに寄り添った丁寧な就学相談に取り組んできた。また、就学相談時にリーフレット『子どもたち一人ひとりの笑顔のために』を活用することにより、保護者は安心して就学を迎えることができているとの報告も受けている。また、就学事務担当者会をとおして、市町間での就学相談体制について情報交換が行われたり、インクルーシブ教育システムの構築や新しい就学指導の流れについて外部講師からの説明を聞いたりして、市町教育委員会は新しい就学体制への準備を始めた。

『移行支援ガイドライン』は4月に県内各保育所、幼稚園、小中学校、高等学校等に配付し、『子育てファイル ふくいっ子』と合わせて、各地域での研修会を行い、各ライフステージでの活用を呼びかけていく。

3 事業の課題とその解決のために必要な取組

今年度以前から早期からの体制ができている市町でも、保育部門の担当者と教育部門の担当者が交代すると、連携システムの機能が低下する。その場合、早期の就学前の保育などから教育への連携を継続していくためには、年度の早い時期で担当者同士が顔合わせをして、普段から互いの情報を密にやりとりできる関係を築き上げておくことが大切であることが分かった。

また、今年度は、幼児の状態を把握するためのアセスメントや指導支援の計画のためのシート、移行支援シートや移行支援ガイドラインなどの支援ツールを作成したが、全県下に普及するための工夫が来年度の課題である。



※「子どもたち一人ひとりの笑顔のために」は、福井県の事業名であるため、「子供」を「子ども」と表記

